

学習支援の方向性確認のための フォーカスグループインタビュー

第55回日本図書館情報学会研究大会シンポジウム
2007年10月14日
鶴見大学記念館2F第1講堂

慶應義塾大学メディアセンター利用者調査WG主査
慶應義塾大学信濃町メディアセンター
市古みどり

慶應義塾大学メディアセンター

中期計画 2006 - 2010

- 環境変化に対応した図書館サービスの実現
 - ポータルサイトの構築
 - 重点サービス群
 - 学習支援
 - 協同レファレンス
 - 情報アクセス
 - 場としての図書館
 - 基盤整備
 - 利用者調査

利用者調査WG

- 利用者ニーズを把握し、サービスの改善を図るための調査を行う
- 2008年にLibQUAL+®を実施する

利用者調査WGの2007年行動計画

- 中期計画2006-2010の方向性を確認するために、学部1・2年を対象とした、学習に関わる図書館利用に限定したインタビュー調査を実施する
- 調査の目的：
 - 学生がどのように学習しているのかを明らかにする
 - 学習支援に対する顕在的・潜在的なニーズを明らかにする
- 調査方法：日吉および湘南藤沢キャンパスの1・2年生を対象としたフォーカスグループインタビュー(FGI)を実施する

参考) Vaughn, Sharonほか. グループ・インタビューの技法. 慶應義塾大学出版会, 1999.

FGI実施のために(1)

- FGIを実施するための事前研修
 - グループインタビューに関する基礎知識
 - グループインタビューの実施方法
 - グループインタビューの体験
 - グループインタビューの分析実習



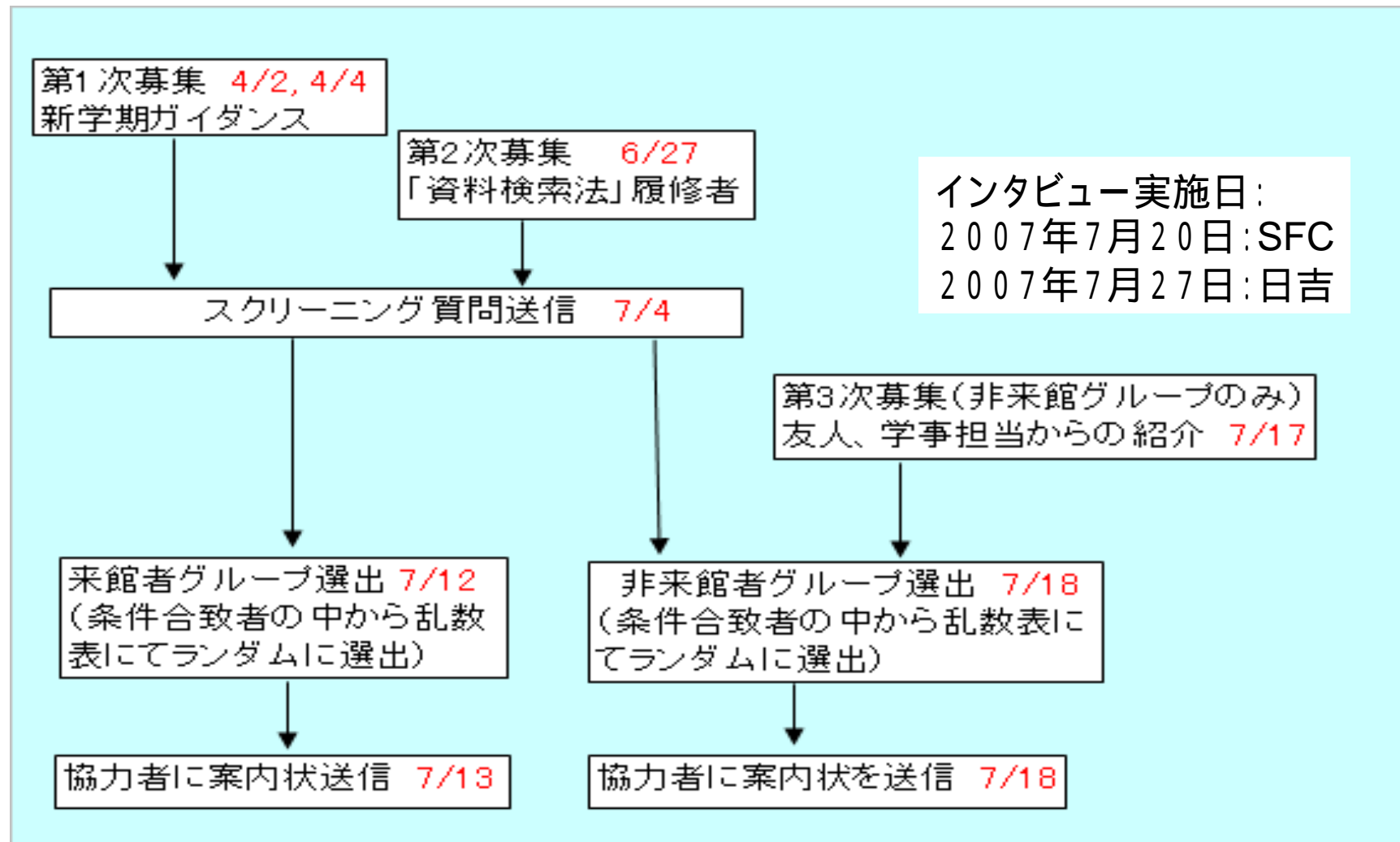
FGI実施のために(2)

- 企画書の作成、調査項目の絞込み
- インタビューガイド
 - 自己紹介(10分*)
 - 学習方法(20分)
 - 学習上の問題点(20分)
 - 図書館の利用実態(10分)
 - 大学図書館に望むこと(10分)
 - 現行サービスに対する満足度(30分)
 - 図書館の新コンセプト案について(20分)

* 時間は目安、120分

FGI実施のために(3)

SFCでの学生募集方法



FGI実施のために(4)

- 参加者
 - SFC 図書館を利用するグループ 5人
 - SFC 図書館を利用しないグループ 6人
 - 日吉 図書館を利用するグループ 5人
 - 日吉 図書館を利用しないグループ 7人
- 参加者への謝礼
- 記録方法
 - 音声録音とメモ
- 司会者
 - WGメンバーが1グループずつ担当

FGI調査の分析

- インタビューの書き起こし
- 重要な発言・概念の抽出
- ラベル付け
- 関係によってカテゴリー化

発言から抜粋

飲食ルール厳しいなというのがあって。たとえばグループワークで行き詰ったときとかに、飴を1個食べるだけでも全然違うと思うので、気分転換にもなるし、そういうちょこっとしたものならいい、みたいなルールがあったらいいなあと思います。

もし(グルワ室に)持って行くならば、ここを出るときにきれいになっていないと出られない、みたいな制度がないと、ゴミが残って、環境が悪くなるので。

課題：調査結果を現場と結びつける

- 結果を組織内でよく咀嚼する
 - 経験の差などによる読み方、見方の違い
- 現場の文化にEBLIPの考えを根付かせる
 - 通常業務と調査研究
- 利用者の目線で考えたサービスの提案
- 業務へ反映、その後の評価

おわり

本調査は平成19年度私立大学図書館協会の研究助成を受けています。